

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月8日
【四半期会計期間】	第17期第2四半期（自平成25年7月1日至平成25年9月30日）
【会社名】	株式会社マーベラスAQL
【英訳名】	Marvelous AQL Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 許田 周一
【本店の所在の場所】	東京都品川区東品川四丁目12番8号
【電話番号】	03 - 5769 - 7447
【事務連絡者氏名】	取締役 山角 信行
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区東品川四丁目12番8号
【電話番号】	03 - 5769 - 7447
【事務連絡者氏名】	取締役 山角 信行
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第2四半期 連結累計期間	第17期 第2四半期 連結累計期間	第16期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	7,904,252	9,585,511	17,579,434
経常利益 (千円)	1,021,133	1,385,114	2,325,901
四半期(当期)純利益 (千円)	645,118	860,654	1,919,042
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	645,130	869,275	1,915,469
純資産額 (千円)	9,424,326	10,895,752	10,694,665
総資産額 (千円)	13,485,709	15,484,948	15,341,883
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	12.07	16.10	35.90
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	69.9	70.4	69.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	915,905	1,940,363	2,817,978
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,393,268	637,822	2,130,392
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	901,411	791,915	975,847
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	4,600,298	6,256,854	5,723,957

回次	第16期 第2四半期 連結会計期間	第17期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	9.27	6.16

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式がないため記載しておりません。
4. 平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算出しております。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるエンターテインメント業界は、ソーシャルゲーム市場の成長率に鈍化傾向が見られたものの、依然として市場拡大は継続いたしました。また、スマートフォンの急速な普及により、従来型のWebブラウザゲームに加えて、スマートフォンにインストールして遊べるアプリゲーム市場が急拡大しております。一方、家庭用ゲーム市場におきましては、厳しい市場環境にありますが、平成25年9月に開催された東京ゲームショーでは、国内初公開されたPS4の実機が注目を集め、試遊スペースには長蛇の列ができる等、復調の兆しも見られました。音楽・映像分野では、ブルーレイ市場の継続成長や有料動画配信市場の拡大傾向が見られました。

このような状況下、当社グループは、多彩なエンターテインメントコンテンツをあらゆる事業領域において様々なデバイス向けに展開する「マルチコンテンツ・マルチコース・マルチデバイス」戦略を基軸とした総合エンターテインメント企業として、強力なIPを中核としたブランディング戦略・アライアンス戦略・グローバル戦略を積極的に推進し、話題性の高いコンテンツの提供とサービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年9月30日）の業績は、売上高9,585百万円（前年同期比21.3%増）、営業利益1,365百万円（前年同期比23.5%増）、経常利益1,385百万円（前年同期比35.6%増）、四半期純利益860百万円（前年同期比33.4%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### オンライン事業

当事業のPCブラウザゲームにおきましては、「ブラウザ三国志」をはじめとする主力タイトルがロングヒットを継続しておりますが、市場規模の縮小傾向に伴うかたちで、収益面では前年同期を下回る結果となりました。一方、モバイルゲームにおきましては、前期から引き続き好調を維持しております「一騎当千バーストファイト」、「閃乱カグラ NewWave」に加えまして、平成25年9月に新規タイトル「ハイスクールD×D」の配信を開始し、順調な立ち上がりとなりました。ただし、海外事業につきましては、上半期に北米で配信を開始いたしましたタイトルが計画通りの成績を上げることが出来ず、不採算タイトルとして一括償却を行っております。

これらの結果、売上高は3,960百万円（前年同期比18.9%増）、営業利益は218百万円（前年同期比52.6%減）となりました。

#### コンシューマ事業

当事業の自社販売部門におきましては、平成25年5月に発売の「ヴァルハラナイツ3（PS Vita）」が順調な販売を記録したほか、前期発売の「閃乱カグラ SHINOVI VERSUS-少女達の証明-（PS Vita）」、「朧村正（PS Vita）」等のリピート受注が好調に推移するとともに、その他の旧作りリピート受注も収益に貢献いたしました。また、海外事業につきましても、米国子会社Marvelous USA, Inc.の販売実績が順調に推移いたしました。

アミューズメント部門につきましては、キッズアミューズメント筐体の「ポケモンレッタ」が平成24年7月の稼働開始以来、好調を継続中であり、当事業の収益に大きく貢献いたしました。

これらの結果、売上高は3,763百万円（前年同期比21.0%増）、営業利益は1,273百万円（前年同期比70.9%増）となりました。

#### 音楽映像事業

当事業の音楽映像制作部門におきましては、プリキュアシリーズの新作TVアニメ「ドキドキ！プリキュア」や当社主幹事作品のTVアニメ「やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。」の映像商品化を行い、いずれも順調な推移となっております。

ステージ制作部門におきましては、「ミュージカル『テニスの王子様』」において合計61公演分の実績を計上し、新たに関連DVDを5作品発売いたしました。また、前売りチケットが即日完売となりました「舞台『弱虫ペダル』インターハイ篇」は、前作に引き続き大好評の公演となり、主力シリーズとして定着してまいりました。

これらの結果、売上高は1,861百万円（前年同期比27.3%増）、営業利益は350百万円（前年同期比1.5%増）となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当社グループの当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、資産15,484百万円（前連結会計年度末比143百万円増）、負債4,589百万円（前連結会計年度末比58百万円減）、純資産10,895百万円（前連結会計年度末比201百万円増）となりました。

##### （流動資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、現金および預金の増加等により12,887百万円となり、前連結会計年度末に比べ294百万円増加いたしました。

##### （固定資産）

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は、投資有価証券の売却により2,597百万円となり、前連結会計年度末に比べ150百万円減少いたしました。

##### （流動負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、借入金の返済等により4,526百万円となり、前連結会計年度末に比べ43百万円減少いたしました。

##### （固定負債）

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は、1年内返済予定の長期借入金への振替等により62百万円となり、前連結会計年度末に比べ14百万円減少いたしました。

##### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、四半期純利益の累積が前連結会計年度末の配当による剰余金の減少を上回った結果、10,895百万円となり、前連結会計年度末に比べ201百万円増加いたしました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ532百万円増加し、6,256百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における資金の増減は、営業活動による収入が1,940百万円（前年同期比1,024百万円増）であった一方、投資活動による支出が637百万円（前年同期比755百万円減）、財務活動による支出が791百万円（前年同期比109百万円減）であったことにより、532百万円の資金の増加（前年同四半期連結累計期間は1,378百万円の減少）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、税金等調整前四半期純利益が1,372百万円、減価償却費が547百万円、売上債権の減少が507百万円などの要因により、1,940百万円となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、有形固定資産の取得による支出117百万円、無形固定資産の取得による支出497百万円が主因となり、637百万円となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は、短期借入金の純減少26百万円、長期借入金の減少96百万円、配当金の支払額668百万円などにより、791百万円となりました。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、オンライン事業49百万円、コンシューマ事業22百万円、総額は71百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	900,000
計	900,000

(注) 平成25年5月24日開催の取締役会決議において、平成25年10月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は89,100,000株増加し、90,000,000株となっております。

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	535,931	53,593,100	東京証券取引所 (市場第一部)	(注)2
計	535,931	53,593,100	-	-

(注)1 提出日現在発行数には、平成25年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

2 平成25年5月24日開催の取締役会決議により、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割するとともに、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用いたしました。これに伴い、発行済株式総数は53,057,169株増加し、53,593,100株となっております。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	535,931	-	1,128,472	-	1,129,991

(注) 平成25年5月24日開催の取締役会決議により、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割するとともに、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用いたしました。これに伴い、発行済株式総数は53,057,169株増加し、53,593,100株となっております。

(6)【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
中山 隼雄	東京都港区	98,225	18.33
株式会社アミューズキャピタル	東京都中央区銀座3丁目15-8	67,000	12.50
中山 晴喜	東京都世田谷区	54,803	10.23
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	27,871	5.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	18,621	3.47
株式会社アミューズキャピタルインベストメント	東京都中央区銀座3丁目15-8	18,400	3.43
ドイチェ バンク アーゲー ロンドン ビービー ノントリティー クライ アンツ613 (常任代理人 ドイチェ証券株式会 社)	TAUNUSANLAGE 12,D-60325 FRANKFURT AM MAIN,FEDERAL REPUBLIC OF GERMANY (東京都千代田区永田町2丁目11- 1)	18,077	3.37
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	14,271	2.66
株式会社東北新社	東京都港区赤坂4丁目8-10	7,800	1.46
ノムラビービーノミニーズ ティーケー ワンリミテッド (常任代理人 野村證券株式会社)	1 ANGEL LANE,LONDON,EC 4R 3AB, UNITED KINGDOM (東京都中央区日本橋1丁目9-1)	6,218	1.16
計	-	331,286	61.81

(注)上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

資産管理サービス信託銀行株式会社	27,871株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	18,621株

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,380	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 534,551	534,551	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	535,931	-	-
総株主の議決権	-	534,551	-

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社マーベラスAQL	東京都品川区東品川四丁目 12番8号	1,380	-	1,380	0.26
計	-	1,380	-	1,380	0.26

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,123,957	7,756,854
受取手形及び売掛金	3,515,610	3,009,291
電子記録債権	28,386	28,845
たな卸資産	<sup>1</sup> 957,674	<sup>1</sup> 1,240,567
その他	1,013,380	901,718
貸倒引当金	45,541	49,777
流動資産合計	12,593,467	12,887,499
固定資産		
有形固定資産	611,596	619,023
無形固定資産		
のれん	227,096	206,090
その他	1,141,852	1,202,759
無形固定資産合計	1,368,949	1,408,850
投資その他の資産	876,858	683,349
貸倒引当金	108,989	113,774
固定資産合計	2,748,415	2,597,448
資産合計	15,341,883	15,484,948
負債の部		
流動負債		
買掛金	769,468	807,138
短期借入金	602,005	575,380
1年内返済予定の長期借入金	180,503	100,303
未払印税	965,837	965,528
未払法人税等	226,863	532,042
引当金	126,214	-
その他	1,699,746	1,546,511
流動負債合計	4,570,637	4,526,903
固定負債		
長期借入金	64,520	48,241
資産除去債務	12,059	14,051
固定負債合計	76,579	62,292
負債合計	4,647,217	4,589,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,128,472	1,128,472
資本剰余金	6,373,514	6,373,514
利益剰余金	3,226,614	3,419,080
自己株式	27,726	27,726
株主資本合計	10,700,875	10,893,341
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11	48
為替換算調整勘定	6,220	2,362
その他の包括利益累計額合計	6,209	2,411
純資産合計	10,694,665	10,895,752

負債純資産合計	15,341,883	15,484,948
---------	------------	------------

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	7,904,252	9,585,511
売上原価	4,101,322	4,903,139
売上総利益	3,802,930	4,682,371
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 2,697,836	<sup>1</sup> 3,317,356
営業利益	1,105,093	1,365,015
営業外収益		
受取利息	3,155	1,588
為替差益	-	18,415
その他	2,140	4,968
営業外収益合計	5,295	24,973
営業外費用		
支払利息	7,100	4,698
持分法による投資損失	67,139	-
為替差損	14,197	-
その他	818	175
営業外費用合計	89,255	4,873
経常利益	1,021,133	1,385,114
特別利益		
投資有価証券売却益	-	<sup>2</sup> 37,469
特別利益合計	-	37,469
特別損失		
和解金	-	<sup>3</sup> 49,905
特別損失合計	-	49,905
税金等調整前四半期純利益	1,021,133	1,372,679
法人税等	376,014	512,024
少数株主損益調整前四半期純利益	645,118	860,654
少数株主利益	-	-
四半期純利益	645,118	860,654
少数株主利益	-	-
少数株主損益調整前四半期純利益	645,118	860,654
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	194	37
為替換算調整勘定	1,917	5,293
持分法適用会社に対する持分相当額	1,710	3,290
その他の包括利益合計	12	8,620
四半期包括利益	645,130	869,275
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	645,130	869,275
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,021,133	1,372,679
減価償却費	281,969	547,734
映像コンテンツ償却額	59,992	109,332
貸倒引当金の増減額(は減少)	6,721	4,934
受取利息	3,155	1,588
支払利息	7,100	4,698
持分法による投資損益(は益)	67,139	-
売上債権の増減額(は増加)	249,436	507,919
たな卸資産の増減額(は増加)	125,331	390,981
仕入債務の増減額(は減少)	118,644	37,325
投資有価証券売却損益(は益)	-	37,469
賞与引当金の増減額(は減少)	42,878	109,435
役員賞与引当金の増減額(は減少)	15,242	17,167
和解金	-	49,905
未払金の増減額(は減少)	6,848	7,415
未払印税の増減額(は減少)	128,305	675
未払消費税等の増減額(は減少)	6,773	8,619
その他	60,564	133,507
小計	924,165	2,194,684
利息及び配当金の受取額	3,008	1,795
利息の支払額	5,171	4,278
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	6,096	201,932
和解金の支払額	-	49,905
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>915,905</b>	<b>1,940,363</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	603,152	117,031
投資有価証券の取得による支出	10,000	-
投資有価証券の売却による収入	-	133,487
投資有価証券の償還による収入	100,000	-
無形固定資産の取得による支出	724,656	497,292
資産除去債務の履行による支出	82,640	-
定期預金の預入による支出	1,400,000	300,000
定期預金の払戻による収入	1,200,000	200,000
事業譲受による支出	-	<sup>2</sup> 56,406
敷金及び保証金の差入による支出	1,902	2,468
敷金及び保証金の回収による収入	128,592	1,448
その他	490	440
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,393,268</b>	<b>637,822</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	525,000	666,290
短期借入金の返済による支出	1,065,882	693,000
長期借入金の返済による支出	36,600	96,479
配当金の支払額	323,403	668,188
ファイナンス・リース債務の返済による支出	525	538
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>901,411</b>	<b>791,915</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	199	22,272
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,378,973	532,896

現金及び現金同等物の期首残高	5,979,272	5,723,957
現金及び現金同等物の四半期末残高	<sup>1</sup> 4,600,298	<sup>1</sup> 6,256,854

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
商品及び製品	16,537千円	71,068千円
仕掛品	909,425	1,112,843
映像コンテンツ	-	23,232
原材料及び貯蔵品	31,711	33,423

2 偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対し、重畳的債務引受を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
株式会社アニメーションスタジオ・アートランド	23,198千円	21,338千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
広告宣伝費	398,454千円	593,205千円
支払手数料	1,133,740	1,291,354
従業員給料及び手当	351,636	364,330
賞与引当金繰入額	12,439	-
貸倒引当金繰入額	13,500	21,645

2 投資有価証券売却益の内容は次のとおりであります。

当社が保有するその他有価証券の一部を平成25年9月に売却したことによるものであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
株式会社マイクロキャビン株式	-	37,469千円

3 和解金の内容は次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

Checkpoint Studios, Inc.との間で生じていた係争に関して和解が成立したことから、同社に支払った和解金であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	6,000,298千円	7,756,854千円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,400,000	1,500,000
現金及び現金同等物	4,600,298	6,256,854

2 事業譲受により増加した資産及び負債の主な内訳は次のとおりです。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

Index Digital Media, inc.オンラインゲーム事業の譲受

固定資産	1,446千円
のれん	54,959
取得価額	56,406
Index Digital Media, inc.オンラインゲーム事業の現金及び現金同等物	-
差引：事業譲受による支出	56,406

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

配当金支払額

平成24年5月10日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	323,403千円
1株当たり配当額	605円00銭
基準日	平成24年3月31日
効力発生日	平成24年6月8日
配当の原資	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

配当金支払額

平成25年5月10日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	668,188千円
1株当たり配当額	1,250円00銭
基準日	平成25年3月31日
効力発生日	平成25年6月7日
配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注)2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,331,895	3,110,179	1,462,177	7,904,252	-	7,904,252
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	237	237	237	-
計	3,331,895	3,110,179	1,462,414	7,904,489	237	7,904,252
セグメント利益	460,557	745,095	344,733	1,550,386	445,292	1,105,093

(注)1 セグメント利益の調整額 445,292千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注)2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,960,773	3,763,893	1,860,844	9,585,511	-	9,585,511
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	570	570	570	-
計	3,960,773	3,763,893	1,861,414	9,586,081	570	9,585,511
セグメント利益	218,512	1,273,716	350,004	1,842,233	477,218	1,365,015

(注)1 セグメント利益の調整額 477,218千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日 )	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日 )
1 株当たり四半期純利益金額	12円7銭	16円10銭
( 算定上の基礎 )		
四半期純利益 ( 千円 )	645,118	860,654
普通株主に帰属しない金額 ( 千円 )	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 ( 千円 )	645,118	860,654
普通株式の期中平均株式数 ( 株 )	53,455,100	53,455,100

( 注 ) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式がないため、記載しておりません。

2 . 平成25年10月 1 日付で普通株式を 1 株につき100株の割合で分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり四半期純利益を算出しております。

( 重要な後発事象 )

株式分割及び単元株制度の採用について

当社は平成25年 5 月24日開催の取締役会決議に基づき、平成25年10月 1 日付で、株式分割及び単元株制度を採用いたしました。

1 . 株式分割及び単元株制度の採用

平成19年11月に全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨を踏まえ、証券市場の流動性及び利便性の向上を図るため、当社株式 1 株を100株に分割するとともに、単元株制度を採用いたしました。

2 . 株式分割の概要

( 1 ) 分割の方法

平成25年 9 月30日(月) を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式を、1 株につき100株の割合を以って分割いたしました。

( 2 ) 分割により増加した株式数

平成25年 9 月30日(月) 最終の発行済株式総数に99を乗じた株式数といたしました。

株式分割前の発行済株式総数	535,931株
今回の分割により増加した株式数	53,057,169株
株式分割後の発行済株式総数	53,593,100株
株式分割後の発行可能株式総数	90,000,000株

( 3 ) 資本金の額の変更

本株式分割におきまして、資本金の額の変更はありません。

3 . 単元株制度の概要

単元株制度を採用し、単元株式数を100株といたしました。

4 . 株式分割及び単元株制度の採用の日程

平成25年10月 1 日を効力発生日といたしました。

5 . その他

当該株式分割による影響については、「1 株当たり情報」に記載しております。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月8日

株式会社マーベラスAQL  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 堀 切 進 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 河 合 宏 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社マーベラスAQLの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社マーベラスAQL及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。